

北海道社会科研究

「学びの本質に迫る実践の充実と深化を目指して」

北海道社会科教育連盟 委員長 太田 和幸
(札幌市立月寒中学校長)



今年度、前任の平澤 淳志校長先生から、伝統ある道社連の襷を受け継ぎ、北海道社会科教育連盟委員長を拝命いたしました、札幌市立月寒中学校長の太田 和幸と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

5月10日の道社連総会におきまして、今年度の事業計画を確認いたしました。10月10日から旭川市において、第80回 北海道社会科教育研究大会を開催いたします。本年は研究主題「社会とつながり、価値を創造する北国の子の育成」のもと進めてきた3か年継続研究のまとめの年であるとともに、80回という区切りの年でもあります。大会当日は、文部科学省より小倉 勝登教科調査官に御来道いただき、大会における公開授業ならびに今次研究の成果についての御批正をいただけるものと期待しています。旭川地区の皆様には多大な御負担をおかけすることと存じますが、これからの北海道の社会科を創る大きな一日となるよう、よろしくお願いいたします。また、全道各地の会員の皆様におかれましても、多くの御参会をいただけますようお願い申し上げます。

さて、社会の劇的な変化と混迷の中、学校に求められる社会的な要請も多岐に及んでおり、教師本来の業務である「いい授業をつくる」ことに十分に力を入れられないという課題があります。同時にコロナ禍の数年間で、本連盟を含めて任意の教育研究団体の組織が小さくなり、授業づくりの勉強をしたくても仲間がいないとか、頼るきっかけがないという声も聞きます。本連盟は、目の前の子どもたちに質の高い学習の場を提供することを共通の思いとして、全道各地の様々な取組を重ねて参りました。

現在、学習指導要領の改訂に向けて、中央教育審議会においては「子どもの学びの本質」に関わる様々な観点からの議論が重ねられています。文科省のHPには資料が掲載され、会議の様子がアーカイブで見られるようになってきました。指導要領がどう変わるかだけでなく、これから重視されていく学びの姿を丁寧に理解し、日々の授業が子どもたちの学びの本質につながるものにしていかなくてはなりません。授業実践そのものを充実したものにしつつ、日々の授業を見直して深めていくことが改めて求められていることを肝に銘じて、今年度の道社連の研究を北海道 One team となって進めていきたいと願います。本年1年間、どうぞよろしくお願いいたします。

令和7年度 北海道社会科教育連盟 総会

新3か年継続研究の3年次の活動スタート 社会とつながり、価値を創造する北国の子の育成

令和7年5月10日(土)、令和7年度北海道社会科教育連盟総会が札幌市立桑園小学校にて開催されました。3か年継続研究の3年目、最終年における研究内容の共有と各地域の活動の充実を図るため、札幌地区をはじめ、全道各地区の代表者が参加し、熱の入った討議を行いました。

〈総会〉

午後2時より開催された総会では、まず道社連事務局次長 井上 友美先生の司会により議事が進行され、令和6年度の事業報告・決算報告・会計監査報告と、令和7年度の事業計画・予算案についての提案が行われ、承認されました。続いて、道社連研究部長 河原 秀樹先生から、函館大会での成果と課題を基に、重点1. 子どもの思考プロセスを大切にした単元デザイン 重点2. 手立てⅢに向かうための新たな問い(問題意識)の醸成 重点3. 学習したことを基に「選択・判断する」「議論する」「構想する」という3年次研究の重点についての提案がなされました。「北海道の研究が、日本の社会科教育をつくっていく」という熱いメッセージがあり、全道が一丸となって共に進んでいく研究の方向性が示されました。

また、道社連事務局次長 石川 円先生より令和19年度(以降)の全小社研大会の開催を北海道・札幌地区での開催希望について提案があり、承認されました。

続いて各地区交流が行われ、令和6年度のそれぞれの地区における授業実践をもとにした研究や、活動の充実を図るための各地区の工夫などについて説明がありました。学習会や研修会、研究会、新会員獲得に向けた取組と組織力強化等、全道各地で社会科の研究を推進する報告がなされました。

最後に、道社連副委員長 石川 篤司先生から、旭川大会の成功に向けて、全道各地区での繋がり、小中9年間の「社会科」という教科を通した繋がりをもより一層大切にしたいとの激励の挨拶があり、総会は閉会しました。

令和7年度 北海道社会科教育連盟役員

委員長	太田 和幸	札幌市立月寒中学校	新
副委員長	青山 天生	旭川市立永山南中学校	再
副委員長	小川 一法	釧路市立中央小学校	新
副委員長	田上 悟	函館市立青柳小学校	新
副委員長	葛西 統実	積丹町立日司小学校	再
副委員長	蟹谷 正宏	愛別町教育委員会	再
副委員長	石川 篤司	札幌市立二条小学校	再
副委員長	末原 恵蔵	札幌市立東札幌小学校	新
副委員長	大畑 秀樹	札幌市立中沼小学校	新
副委員長	田丸 明史	札幌市立発寒中学校	新
副委員長	長尾 美保子	札幌市立福井野中学校	新
会計	高梨 康人	札幌市立新陵東小学校	新
監査	塚田 崇	留萌市立潮静小学校	再
監査	丹野 聡	中標津町立丸山小学校	再

全道各地区交流

《旭川地区》 佐藤 太一 旭川市教育研究会社会科研究部 研究部長

昨年度、小中を合わせて12本の研究授業を行った。全道大会に向けて今年度も一人一人のスキルアップを図っていききたい。

《網走地区》 田中 邦博 網走地区社会科教育研究会 研究部長

昨年度の成果と課題を活用し、今年度はもう一段階進んだ授業を実施していききたい。道社連の研究に少しでも関わっていけるように取り組んでいく。

《胆振地区》 細部 善友 胆振社会科教育連盟 事務局長

人材育成を含め、若い会員の先生の力を取り入れ研修や授業を充実させていく。教科に限らずチャレンジしていくことで力を高めていく。

《渡島地区》 炬口 毅充 渡島社会科教育研究会 事務局長

小学校会員が増えていない一方で中学校会員が入会している。会員を大事にしつつ仲間を増やし活動を充実させていく。研究主題を大事に授業作りに取り組んでいく。

《上川地区》 伊藤 旭人 上川地区社会科教育連盟 小学校研究部長

令和6年度は社会参画に重点を置いて研究を進めてきた。子どもの課題意識を醸成し学習したことをもとに、選択判断し思考したことを表現する姿が見られた。令和7年度は成果と課題を受け継いで、よりよい実践を積み重ねていく。

《釧路地区》 山口 直樹 釧路地方社会科教育研究会 事務局長

令和6年度の夏季研修会を全日小中分科会として行い、充実した内容であったため今後も継続していききたい。令和8年度全道大会釧路大会の日程を10月30日(金)に行うように進めていく。

《札幌地区》 佐野 浩志 札幌市社会科教育連盟 事務局長

北海道の社会科研究が、全国の社会科研究をリードするという気概をもって、札幌市も授業を行い次につなげていく。

《後志地区》 岡村 真哉 後志社会科研究協議会 事務局長

夏季学習会では東北学院大学の佐藤教授をお招きして行った。問題解決的な学習を深めるために、特に導入の工夫について学び合うことができた。会員外の先生の参加もあり今年度もこの流れを大切にしていこう。

《空知地区》 福井 雄也 空知社会科教育研究会 事務局長

空知教育センターと連携協力して社会科の授業講座を行った。社会科研究会に入っていない先生も参加し、有意義な会とすることができた。今年度も秋に開催を予定しているので実りのあるものにしていききたい。

《十勝帯広地区》 大橋 一博 十勝帯広社会科教育研究会 事務局長

十勝ならではの教材を活用した授業づくりを進めていく。アクティブな会員が少ない状況であるため、今までの小中別々の授業研究ではなく、今年度は小中の先生が混ざり合い授業づくりをしてよりよい研究にしていく。

《函館地区》 阿部 聖 函館市小学校社会科教育研究会 幹事長

函館大会を無事終えることができた。ありがとうございました。教科書を使った授業づくりや日々の日常実践に役立つ研修も行うことができた。旭川大会に向けて頑張っていきたい。

《檜山地区》 藤田 淳也 檜山社会科教育研究会 事務局長

会員数の減少という問題があるため、授業公開を多くすることで会員外の先生方にも参加してもらえるようにしていく。各町の研究公開授業ともタイアップして進めていきたい。

《留萌地区》 本山 裕一 留萌地方社会科教育研究会 事務局長

道社連研究部の先生を招いて夏季研修会を行い、研究の進め方、ICTの活用、板書構成など理解を深められた。会員数の減少の問題もあるが、研究会に興味をもってもらえるように取り組んでいく。

研究主題 「社会とつながり、価値を創造する北国の子の育成」

研究副主題 ～見方・考え方を鍛え、確かな社会認識をもとに未来を志向する社会科の学び～

北海道社会科教育連盟研究部長 河原 秀樹（札幌市立日新小学校）

2023 年度より始まった 3 か年研究も、とうとう最終年を迎えました。

本研究は、社会認識にとどまらず、社会参画につながる新たな価値を創造する子どもの学びの姿を明らかにしようとしてきました。VUCA の時代と呼ばれ、将来の変化を予測することが困難な時代の中に生きる子どもたちに、「多様な他者の価値に触れ、自分の価値を創り変えられるようになってほしい」「価値を創造する人物の営み（社会的事象）を通して、確かな社会認識を育んでほしい」「持続可能な社会のために、未来を志向し、新たな価値を創造する子になってほしい」と願い、研究主題の子ども像と研究副主題の授業像を設定しています。

1 年次の札幌大会及び 2 年次研究の函館大会では、授業や全道各地区からの責任提案を通して、研究主題に迫る子どもの姿を明らかにするとともに、研究副主題に迫る授業とその手立てについて皆さんで議論し合うことができました。

そこから見えてきたことを基に、3 年次研究に向けて 3 つの重点を全道各地区の皆さんと共有したいと思います。

重点 1 子どもの思考プロセスを大切にしたい単元デザイン

単元の学習問題と 1 時間のつながりを意識し、子どもの思考プロセスを具体的にイメージしながら単元をデザインしていくことが大切です。

重点 2 手立てⅢに向かうための新たな問い(問題意識)の醸成

手立てⅢ「社会参画につながる新たな価値を創造する 1 時間」の問いが、本当に子ども自身から生まれる問いとなっているのかを吟味したいところです。

重点 3 「選択・判断する」「議論する」「構想する」活動

「社会参画につながる新たな価値を創造する 1 時間」は、学習指導要領の内容の取扱いと関連付けて授業づくりをしていくこととしています。この 1 時間の授業の中では、単元で学んだことを基にしながら選択・判断したり、議論したりすることが重要です。そのことは、単元の問題解決的な学習の充実には他なりません。

研究主題、研究副主題の実現に向けた 3 つの手立てと研究の土台

手立てⅠ

子どもと社会がつながる教材化と単元デザイン

〈具体的な手立ての例〉

- ・教材化の視点（社会認識と社会参画の視点）
- ・教材分析と見方・考え方のつながりの視覚化
- ・主体的な追究を可能にする単元の学習問題と活動目的、問いの設定
- ・単元の学習過程の工夫
- ・子どもと社会的事象の距離を近付ける手立て
- ・人物との出会いを通して教材と子どもをつなぐ工夫
- ・体験的な活動や具体物の工夫

手立てⅡ

社会認識を深めるための 1 時間

〈具体的な手立ての例〉

- ・人物の営みを通して社会的事象の意味を考える本時場面の設定
- ・単元で身に付けた知識がつながる本時場面の設定
- ・一人一台端末活用による個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実の中で社会認識を深める工夫

手立てⅢ

社会参画につながる新たな価値を創造する 1 時間

〈具体的な手立ての例〉

- ・単元で学習したことを基に考える活動の工夫
- ・価値創造につながる新たな問いが生まれる手立て
- ・社会との関わり方について選択・判断する活動
- ・社会の発展について多面的・多角的に考える活動
- ・社会に見られる課題の解決に向けて議論する活動

研究の土台

他者を価値ある存在として受け止める学級経営や教科経営による集団づくり

〈具体的な手立ての例〉

- ・学び方としての知識
- ・自分のよさや可能性への気付きから自己肯定感や、自己有用感を高める学び方

令和 7 年 10 月 10 日（金）は、記念すべき第 80 回となる北海道社会科教育研究大会旭川大会が開催されます。3 か年研究の集大成です。全道各地区の皆さんと大いに成果を語り合いたいと思います。

今年度も皆さんの力を結集して、北海道の社会科教育、そして日本の社会科教育を盛り上げていきたいと思います。

【研究主題】

様々な立場・広い視野で「世界」とつながる子どもの育成

【副主題】 見方・考え方を働かせ、主体的に問いを追究する7年間の学び

旭川大会研究推進部長 松浦 達也(旭川市立近文小学校)

■旭川大会の開催に向けて

令和4年5月に経済産業省が発表した「未来人材ビジョン」によると、子どもたちがこれから生きていく社会は、「問題発見力」「的確な予測」「新たなモノやサービスを生み出す能力」など、従来とは違う資質・能力が求められることになると予測されています。それらの力を確実に身に付けさせるために社会科に求められる役割はより一層大きくなっています。

旭川地区では、『様々な立場・広い視野で「世界」とつながる子どもの育成』を研究主題に掲げ、予測不能な未来を力強く生き抜く子どもを育てていきます。

ここで掲げている「世界」は、小学校と中学校とではその範囲が異なります。小学校段階においては、中学年は「身の回りの社会＝地域や北海道」、高学年は「日本国内、自国と他国との関わり」のことです。また、中学校段階においては、文字どおりの「グローバルな世界」を意識しながら、よりよい未来を創造する子どもを育成していきます。

旭川地区が長年の研究で積み上げてきた「単元を通した問題解決的な学習」「小中の接続を踏まえた7年間の学び」を礎に、道社連の今次研究の重点に沿って、旭川地区では下記の3点について研究を進めています。

■研究の視点

- 1 「今」を正しく知るための教材化
- 2 「世界」とつなげる学習計画(単元デザイン)
- 3 「確かな」学習評価

■研究の視点1

「今」を正しく知るための教材化

- ① 「縦と横」の接続(7年間の学び)を意識した教材化

「縦」とは各学年・分野単元の系統性を、「横」とは同じ学年の中での単元のつながりを意味します。

例えば、5年生の自然災害の単元であれば、学習指導要領の分析を十分に行い、4年生の地域の自然災害の学習と5年生の国土学習の単元とのつながりを意識して学習をスタートします。

子どもたちが他学年との系統性や学年の内容とのつながりを意識して学習を進め、学習計画や予想を立てる段階で既習事項をもとに考えることができれば、主体的な追究をスムーズに始められるはずです。また、教師が7年間で子どもを育てるということを意識するため、中学校との単元の結び付きについてもしっかり押さえます。中学校においては、小学校の既習事項を踏まえた上で、指導内容を精査しています。

②変化の時代を正しく捉える教材化

子どもたちが生きている「今」は、かつてないほど目まぐるしい速度で変化しています。教材化するにあたり、気を付けたいことは「本当か」という視点です。「この情報は信頼できるものか」「特定の見方や考え方に偏った取扱いになっていないか」などじっくり精査し、子どもたちに資料提示等を行います。

■研究の視点2

「世界」とつなげる学習計画(単元デザイン)

- ① 社会的な見方・考え方を働かせながら、主体的な追究を促すための問い

旭川地区では、単元の学習のまとめである「ユニット」で子どもたちの追究活動を支える手立てを考えるなど、問題解決的な学習過程について長年、研究を続けてきました。今次研究でも、問題解決的な学習過程を重視し、新しい時代に必要となる資質・能力を単元の一連の学習過程で育成できるよう、単元レベル・本時レベルの問いを吟味する研究を進めています。

② 予想・仮説をもとに子どもが学習計画を決定する1時間の設定

問題解決の見通しをもたせるために、「資料をもとに予想させる」「社会的事象との出会いを工夫して予想させる」「学習したことをもとに予想させる」「前の単元と同じ展開をもとに予想させること」を研究し、手立てとしては一定の成果を出すことができました。一方で、資料の質や量、学習計画との関係性をつなぐには課題もあるため、今年度もさらに研究を深めています。

③ 自分事として「世界」とつながる1時間の設定

子どもたちが1時間毎の学びを、概念的な知識の獲得につなげたり、深い意味理解へと質を高めたりしていけるように、単元の終末に社会的事象を新たな視点で捉えることのできる「プラスワン資料」を提示します。

④ 社会の発展や関わり方について考える1時間の設定

今年度の旭川大会では、「社会の発展や関わり方について考える1時間」について提案します。

「主体的に問いを追究する子ども」を育てるために、社会科では、社会の仕組みや現状のよさだけではなく、課題を見せることも必要です。それにより、「自分たちにも関わりがある」「このままではいけないのではないか」などと自分事として考えるようになるからです。

自分との関わりを考えさせる・話し合わせるための視点を与える必要があります。「それをするとなんがよいのか」「そのために誰がするのか」「本当にできるのか」「どうすれば続けられるのか」など、よりよい未来や社会を子どもたちが自ら考えていくために、選択・判断の問い(=「よりよい未来へ導く問い」)を十分に吟味し、自分たちの行動や生活の仕方やこれからの社会の発展などを考える学習場面を設定します。

■研究の視点3 「確かな」学習評価

① 教師が行う評価～指導と評価の一体化

単元の指導計画の中に観点別評価を位置付け、見取りの場面と方法を明確にし、指導の改善や学びの充実に生かします。

○単元内における評価場面の主な例

学習過程	評価の観点と学習プロセス
問いをつかむ 見通す 決める	評価(主) 主体的な問題解決・見通し
	評価(思・判・表) 着目して問いを見出す
調べる 学び合う	評価(知・理) 調べて分かる
	評価(知・理) まとめて分かる
まとめる 振り返る	評価(思・判・表) 考えて、選択・判断する
	評価(主) よりよい社会を考えようとする

また、CをBにするための具体的な手立てを教師が準備し、単元や本時の目標を達成するための「生かす評価」の本質に迫れるようにしています。

② 子どもが行う評価～見通しと振り返り

「主体的に学習に取り組む態度」の評価を行う際に、子どもが自分の学びを振り返り、次の学びに生かそうとする評価活動の工夫は、子どもが主体的に問いを見出し、その追究過程を通じて、学びを確かなものとするために欠かせません。

「学習内容について何が分かったか」「何が分からなかったか」「学習問題に対してどれくらい解決が進んでいるか」「次はどうするか」など、振り返りの視点を示しながら継続的な学習の振り返りを行うことで実感を伴う理解を図り、次への見通しへとつなげていきます。

○自分の学びと向き合うための振り返り【例】

見方	・・・に注目して考えました。
考え方	・・・と比べて ・・・をまとめると ・・・と・・・をつなげて考えると
立場	(今日は)・・・の立場で考えてみました。
仮定	もし・・・だったら
はてな	・・・が不思議だと思いました。 ・・・に疑問をもちました。
気持ち	・・・と感じました。 ・・・がすごいと思いました。 ・・・に感動しました。
仲間との学び	〇〇さんの意見で・・・ということに気付きました。 〇〇さんの意見の・・・がすごいと思いました。
自分の成長	・・・ができるようになりました。 授業の前は・・・だったけれど、今は・・・
これからの見通し	次は・・・について調べてみたいです。 これからは・・・について知りたいです。
学びの現在地	単元の学習課題の解決に対して今は・・・です。

第80回北海道社会科教育研究大会

公開授業の概要

小学3年 単元名「くらしを守る」

本単元では、消防・警察・地域が火事や事件・事故を防ぐためにそれぞれの立場での工夫や努力をしている様子を学習します。本時では、発生件数や警察・消防の方のインタビュー動画から新たな問題を見出し、既習を基に自分たちができることを考え、地域社会の一員であることに気付かせることを目指します。

授業者

旭川市立永山南小学校
早川 栄里子



小学4年 単元名「自然災害からくらしを守る」

本単元では、北海道内で起こる身近な災害が「雪害」であると捉え、雪害からくらしを守る人々の営みを学習します。本時では、雪害に対して自分たちができることを考え、選択・判断することで、防災や社会参画の意識を高めていくことを目指します。

授業者

北海道教育大学附属旭川小学校
佐藤 正志



小学5年 単元名「私たちの生活と森林」

森林資源を守る取組は様々な立場から行われているという事実を学習した上で、「私たちはどうすればよいか」「これからは何が大切か」を考えたり、選択・判断したりします。「森林環境譲与税をどのように使うべきか」という問いについて議論することを通して、国土の保全や、環境保全の意識を高めていくことを目指します。

授業者

旭川市立近文小学校
松田 隆之



小学6年 単元名「江戸幕府と政治の安定」

児童に問題解決の見通しをもたせる単元の導入場面を公開します。本時では、徳川幕府が長く続いたという社会的象事との出会いから学習問題をつくり、既習を基にした予想から学習計画を立てていきます。児童の疑問を大切にしながら、やりとりすることで、追究意欲を高めていく授業を目指します。

授業者

旭川市立東五条小学校
高原 隼希



中学地理 単元名「中国・四国地方」

日本の諸地域の小単元の「中国・四国地方」と「関東地方」を中単元として捉え「人口や都市、村落を中核とした考察」を行います。本時は小単元の終末場面としてのまとめを行うとともに、「関東地方」への新たな問いに向かうための1時間となっています。また、「自然環境を中核とした考察」を行った「北海道地方・九州地方」で身に付けた見方・考え方を働かせていきます。

授業者

旭川市立神居中学校
仲倉 昇吾



中学歴史 単元名「明治維新と立憲国家への歩み」

日本の近代化について、小学校や「欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き」での既習を活かしながら、政治、文化、産業、外交など様々な側面から、日本がどのような国家を目指していたのかを多面的・多角的に考察します。本時は、その導入場面として、生徒が単元課題を設定し、学習の見通しをもたせていきます。

授業者

旭川市立春光台中学校
吉田 健太



中学公民 単元名「地方自治と住民の参加」

本単元では、地方公共団体と住民の視点から地方自治を捉え、「地方自治」に関する知識の獲得と、より良い社会の実現に向けた民主政治の推進について多面的・多角的に追究します。本時はそのまとめ段階として、地理的分野の既習を活かしつつ、「将来の旭川像」を『実現可能性』や『効率と公正』などの視点から考察し構想していきます。



授業者

旭川市立愛宕中学校
佐々木 貴大

第1次案内

第80回北海道社会科教育研究大会旭川大会

北海道社会科教育連盟研究主題【2023-2025 3か年継続研究】

社会とつながり、価値を創造する北国の子の育成

旭川市教育研究会社会科研究部研究主題

様々な立場・広い視野で「世界」とつながる子どもの育成

- 1 主催 北海道社会科教育連盟
- 2 主管 旭川市教育研究会社会科研究部
- 3 後援 北海道教育委員会 旭川市教育委員会 北海道小学校長会
北海道中学校長会 旭川市小学校長会 旭川市中学校長会
旭川市教育研究会 旭川市小中学校教頭会
- 4 期日及び会場 令和7年10月10日(金) 9:45~16:40

【午前の部】

旭川市大雪クリスタルホール
音楽堂

	9:15	9:45	10:00	10:15		11:35	11:40		13:20
	受付	開 会 式	研 究 説 明	講 演 小倉 調査官 音楽堂		諸 連 絡			移 動・昼 食

【午後の部】 ※小学校2会場 中学校1会場で実施します。

近文小学校会場



5・6年

附属小学校会場



3・4年

	13:20	14:05	14:25	15:25	15:35	16:20	16:25	16:40
	授業(45)	移 動	研究協議 I	研究協議 II		閉 会 式		

神居中学校会場

地理・歴史・公民



	13:20	14:10	14:25	15:25	15:35	16:20	16:25	16:40
	授業(50)	移 動	研究協議 I	研究協議 II		閉 会 式		

小学3年	旭川市立永山南小学校教諭	早川栄里子	「くらしを守る」
小学4年	北教大附属旭川小学校教諭	佐藤 正志	「自然災害からくらしを守る(雪害)」
小学5年	旭川市立近文小学校教諭	松田 隆之	「私たちの生活と森林」
小学6年	旭川市立東五条小学校教諭	高原 隼希	「江戸幕府と政治の安定」
地理的分野	旭川市立神居中学校教諭	仲倉 昇吾	「日本の諸地域 中国・四国地方」
歴史的分野	旭川市立春光台中学校教諭	吉田 健太	「明治維新と立憲国家への歩み」
公民的分野	旭川市立愛宕中学校教諭	佐々木貴大	「地方自治と住民の参加」

- 5 参加費 3,500円(資料代として)
- 6 講演 文部科学省初等中等教育局教育課程課・教科調査官 小倉 勝 登 氏
- 7 大会事務局・連絡先

〒070-8014 旭川市神居4条6丁目 旭川市立神居小学校内
第80回北海道社会科教育研究大会旭川大会運営委員会
事務局長 宮腰 唯導 TEL 0166-61-7488



旭川大会 HP